

ヘルスケア産業の最前線

ホスピタルデザイン研が都内で

「生涯現役社会目指して」フォーラム開く



大塚宣夫氏



江崎禎英氏



戸倉蓉子氏

「生涯現役社会を目指して、ヘルスケア産業の最前線」をテーマとした日本未来健康フォーラムが3月27日、東京・西新宿の京王プラザホテルで開かれた。ホスピタルデザイン研究会（会長・戸倉蓉子ドムスデザイン代表取締役）が主催したもので、医療・介護・健康、建築設計、住宅・不動産関係から約120人が参加、今後の医療・介護、健康のあり方を探った。

まず「生涯現役社会の構築に向けて、超高齢社会への対応」と題して経済産業省ヘルスケア産業課長の江崎禎英氏が講演。今後は「予防・健康管理の重点化」が大事であると強調。①切れ目のない予防対策、②地域資源の活用、③自立的・持続的なヘルスケア産業の創出を政策として掲げた。その実現のため「厚労省、日本医師会と経産省が連携して取り組む」と述べた。

続いて医療法人社団慶成会会長の大塚宣夫氏が「高齢者
よ大志を抱け！～豊かな老後は自分でつくる」と題して講演。現在、青梅市（700床）と稲城市（240床）で医療付き老人ホーム、高齢者ホスピスというイメージの「最期の3カ月から1年を過ごす」ための慶友病院を経営。37年の実績を基にした「老後を豊かに過ごすための基礎知識」として、「年をとったら独立独歩、一人で生きること」などの秘訣を紹介した。



フォーラムの講演会風景